

地方創生関係交付金等 (2022年度の活用実績)

2022年度 地方創生関係交付金等の活用実績

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
国の総合戦略	まち・ひと・しごと創生総合戦略							デジタル田園都市国家構想総合戦略		
地方版総合戦略	福山市総合戦略					福山みらい創造ビジョン				
地方創生推進交付金 <small>※2023年度からデジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）</small>	だれもが挑戦できるまちづくり									
	地域資源を活用したまちの魅力・活力創出事業									
	女性キャリアデザイン支援事業									
				プロフェッショナル人材活用及び産学官連携による人材スキルアップ事業						
				備後圏域の魅力ブラッシュアップ事業						
				① 福山城築城400年を核とした地域活性化プロジェクト						
				地方における多様な働き方実現プロジェクト						
				② 本格的な人口減少対策～ベルソナマーケティングによる戦略的な施策展開～						
				③ Society5.0へのチャレンジ～新たなライフスタイルを実現できる都市スマートシティふくやま～						
				④ 福山版MICEの推進～都市のポテンシャルを引き出し、経済を活性化する～						
						⑤ 稼ぐ力を高める備後圏域トータルプロデュース				
						⑥ 福山市地域戦略～多様な主体と共に創る地域づくりの推進～				
						⑦ 外国人が暮らしやすく活躍できるまちづくり				
									⑩ 世界パラ会議福山大会を契機としたばらのまちづくりプロジェクト	
									⑪ 若者・女性から選ばれる都市づくり	
									⑫ ふくやまSDGs推進プロジェクト	
地方創生拠点整備交付金 <small>※2023年度からデジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）</small>	水香交流館									
			美術館茶室							
デジタル田園都市国家構想推進交付金 <small>※2023年度からデジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）</small>							書かない窓口システムの導入 公民館等のスマート化 サテライトオフィス等整備事業費補助事業	スマート保育推進事業		
まち・ひと・しごと創生寄附活用事業 <small>（企業版ふるさと納税）</small>	夢・希望の実現による福山未来づくりプロジェクト									
				⑧ 福山城築城400年～城のあるまち福のまちプロジェクト～						
							⑨ 福山市まち・ひと・しごと創生推進計画			

1 地方創生推進交付金を活用した事業の状況（2022年度実績）

※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	福山城築城400年を核とした地域活性化プロジェクト	計画期間	2019年度～2022年度	事業費 (うち交付金充当額)	2019年度 実績額	2020年度 実績額	2021年度 実績額	2022年度 実績額	合計
概要	福山城築城400年の取組を通じ、歴史や文化、伝統産業を担う人材を確保するとともに、歴史・文化資源を新たな人の流れを作り出す資源に変化させる。				29百万円 (14百万円)	10百万円 (5百万円)	27百万円 (13百万円)	30百万円 (15百万円)	96百万円 (47百万円)

1 KPIの進捗



関連するKPI	事業開始前	実績値 (2019年)	実績値 (2020年)	実績値 (2021年)	実績値 (2022年)	目標値 (2022年)
総観光客数	725万人 (2017年)	630万人	379万人	354万人	436万人	825万人
福山市文化ゾーンの来場者数	410千人 (2017年)	351千人	131千人	124千人	348千人	437千人
2022年に福山城が築城400年を迎えることを知っている市民の割合	40.7% (2018年)	46.8%	45.8%	61.8%	77.6%	85.7%

※総観光客数は、2019年から算出方法を「広島県観光客統計調査に関するガイドライン」に沿って算出

2 主な事業内容


(1) 福山城築城400年記念事業 福山城利活用事業（実績額：15百万円） ※企業版ふるさと納税充当額：3百万円

福山城の利活用に向けた実証実験等を行い、歴史・文化資源等の価値の磨き上げや新たな魅力づくりにつなげる。

2022年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> 福山城の利活用に関する実証実験  <p>【城泊実証実験】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 城泊実証実験（10月17日・18日） <ul style="list-style-type: none"> 月見櫓や天守など福山城が有する歴史資源を活用した福山城キャスルスステイ（城泊）の実証実験の実施 福山城を活用した備後福山秋の陣・日本酒まつりの開催（9月30日、10月1日、2日）（来場者数：7,000人）  <p>【日本酒まつり】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 福山城築城400年記念事業で創出した福山城周辺の賑わいを今後も継続する必要がある。
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> 城泊については、主体となる事業者の選定や管理運営方法の検討を行う。 年間を通して福山城周辺で多彩な事業を実施する。

(2) 福山城築城400年記念事業 市民企画事業（実績額：12百万円） ※企業版ふるさと納税充当額：2百万円

城があるまち福山を市民全体の誇りとするため、市民や団体自らが企画・実施する事業の支援を行う。

2022年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> 市民企画事業の開催支援  <p>【市民企画事業】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民企画事業 <ul style="list-style-type: none"> 福山城周辺でのイベントや市内各地の歴史的資源に関する見学会や講演会等を実施（事業数：29事業、総参加者数：約2.3万人） 	<ul style="list-style-type: none"> 民間主体の事業実施及び自走化に向けた取組が必要。
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> 民間団体への補助を実施。

事業の評価	
事業効果	地方創生に非常に効果的であった
	○ 地方創生に相当程度効果があった
	地方創生に効果があった
	地方創生に対して効果がなかった
主な委員意見	
○	市民に対して、「城があるまち福山」の歴史と文化に触れる機会の創出として、過去になかった取組が築城400年を機に行われたことは、福山の観光PRに大いに役立ったと考える。新たな観光拠点としての礎が築けたのではないかと考える。
○	多くの市民の理解と協力のもと、歴史・文化資源を新たに利活用する多くの取組が行われ、福山城周辺に新たなにぎわいが生まれた。持続的な利活用のためには、行政主体として行うのではなく、市民自らが企画・実行し収益を確保することにより、ナイトタイムエコノミーに資する仕掛けづくりに取り組む必要がある。
○	今後も、福山城を中心としたイベントや広告・宣伝を継続的に行うことにより、末永いコンテンツとして活かしていくべきと考える。
○	今後も、利用者増に向けて積極的に広報活動を展開すべきと考える。

地方創生推進交付金を活用した事業の状況 (2022年度実績) ※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	本格的な人口減少対策～ペルソナマーケティングによる戦略的な施策展開～	計画期間	2020年度～2022年度	事業費 (うち交付金充当額)	2020年度実績額 6百万円 (3百万円)	2021年度実績額 22百万円 (11百万円)	2022年度実績額 24百万円 (12百万円)	合計	52百万円 (26百万円)
概要	ペルソナマーケティングによる施策の再構築を進め、若者や子育て女性にとって働きやすい・住みやすい地方都市を実現する。								

1 KPIの進捗


関連するKPI	事業開始前	実績値 (2020年)	実績値 (2021年)	実績値 (2022年)	目標値 (2022年)
女性向け合同企業説明会での内定者数	—	2人	1人	4人	11人
自分の時間が持てると回答した子育て共働き女性の割合	82.4% (2019年)	—	80.4%	— (※)	100%
企業・団体等が新たに連携して実施した子育て支援の取組数	—	0件	6件	9件	19件

2 主な事業内容

※次回2023年度調査

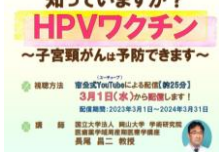
(1) ペルソナマーケティングを活用した施策の推進 (実績額: 4百万円)

ペルソナマーケティングを活用した施策の構築や民間主導による取組の拡大に向けた支援を行う。

2022年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ 兼業・副業の高度専門人材の活用 ○ 大学生向けセミナーの開催  <p>【大学生向けセミナー】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの事業の総括や外部人材からのアドバイスを踏まえた施策の検討による人口減少対策アクションプランの策定 ○ 市内の大学生向けに、外部人材を活用した人口減少対策に関するセミナーを開催 (参加者数:152人) ○ 従業員への休暇取得・早めの退社の促進 (応援企業:9社 参加者数:約190人) ○ 親子で楽しめるイベント等を企業・団体と連携して実施 (連携イベント:7件 参加者数:約950人) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 若者の転出超過が続いており、多角的な要因の分析が必要。 ○ 参加企業が10社程度に留まっており、民間との連携を促進する取組が必要。 <p>今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 若者の就学・就職時の意識を把握しながら、地元定着を促進する施策を構築し、若者の転出超過の抑制につなげる。 ○ 男性の育児参加促進に向け、より多くの企業に参加してもらえるよう、効果的な周知・啓発に取り組む。

(2) 地域の子育て環境の充実 (実績額: 20百万円)

地域の周産期・産婦人科医療を担う人材を育成し、安心して子どもを産み育てられる環境を整備する。

2022年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ 妊娠・出産等に関する市民向け講座の実施  <p>【市民向け講座】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 妊娠・出産や子宮頸がんに関する市民向けの公開講座の実施 (YouTube配信) (実施回数:2回, 総視聴回数:698回) ・「11月3日は「いいお産の日」です～安心・安全な妊娠・出産を withコロナ～」 ・「知っていますか? HPVワクチン～子宮頸がんは予防できます～」 ○ 基幹的病院において、産婦人科医療を担う人材を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内の分娩を取り扱う医療機関の閉院や分娩の取扱いをやめる医療機関が発生するなど、周産期医療体制が縮小している。 <p>今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県や大学との連携を強化し、安定した周産期医療体制の確保を図る。

事業の評価	
事業効果	○ 地方創生に非常に効果的であった
	○ 地方創生に相当程度効果があった
	○ 地方創生に効果があった
	○ 地方創生に対して効果がなかった
主な委員意見	
<ul style="list-style-type: none"> ○ ペルソナマーケティングによりターゲットを絞った事業を実施することで成果につながると思うので、引き続き実施すべきと考える。 ○ 福山市の規模を考えると、KPIの実績値が小さいため、さらに予算を付けて実施しないと、人口減少に歯止めがかからないのではないかと考える。 ○ (仮称)グリーンなものづくり企業プラットフォーム事業と連携すべきと考える。 ○ 若者・女性をターゲットとしたモニター調査を行うことが必要と考える。 ○ 地元企業からは、男性の雇用に関する悩みを多く聴いており、女性だけでなく男性も含めた地元企業への就職率が高まるような支援策が必要と考える。 	

地方創生推進交付金を活用した事業の状況（2022年度実績） ※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	Society5.0へのチャレンジ～新たなライフスタイルを実現できる都市スマートシティふくやま～	計画期間	2020年度～2022年度	事業費 (うち交付金充当額)		2020年度実績額	35百万円 (17百万円)	2021年度実績額	77百万円 (39百万円)	2022年度実績額	103百万円 (51百万円)	合計	215百万円 (107百万円)
概要	先端技術とデータの活用による新たなライフスタイルを実現できる都市をめざす。												


1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値 (2020年)	実績値 (2021年)	実績値 (2022年)	目標値 (2022年)
ICT等を活用した健康サービスを利用する高齢者の割合	—	未実施	0.2%	1.2%	4.5%
地域事業者と連携した新たなサービス数	—	1件	2件	1件	2件
ふくやまワーク・ライフ・バランス認定事業者数	105社 (2018年)	135社	140社	141社	150社

2 主な事業内容


(1) 産業・地域のデジタル化（実績額：100百万円）

中小企業・地域のデジタル化を推進するとともに、先端技術を活用した実証実験を実施する。

2022年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ 産業・地域のデジタル化や課題解決支援 ○ 子どもたちがデジタル技術に触れる機会の提供  <p>【ふくやまビジネスキャンプ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 産業や地域のデジタル化を推進 <ul style="list-style-type: none"> ・備後圏域企業等を対象としたICT導入や活用に対応する相談窓口「びんごICT相談所」を運営（相談件数:29件、支援件数:19件） ・企業のデジタル化について、備後圏域企業等を対象とした課題や成功事例等を共有する「びんごデジタルラボ」の運営（開催回数:5回、参加企業数:129社） ・「ふくやまビジネスキャンプ」の開催(参加企業数:15社) ・まちづくり推進委員会を対象としたLINE研修会の実施（参加者数:248人） ○ 子どもたちを対象とした、デジタル技術等を体験できる「びんごキッズラボ」の開催（参加者数:1,399名※計2回実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ デジタル化に関心が無い企業に対して、デジタルに取り組むきっかけづくりが必要。 ○ 企業がデジタル化についてさらに相談しやすい環境の整備が必要。 <p>今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 急速に実装が進む生成AIなど、企業の関心が高いテーマについて事例を発信する。 ○ 各市町の産業支援機関と連携した出張ICT相談を実施することで、デジタル化の支援を強化する。

(2) 行政のデジタル化-スマート保育の推進-(実績額：2百万円)

保育施設にICTを導入し、保護者の利便性の向上や職員の業務改善をめざす。

2022年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育施設にスマート保育を導入  <p>【スマート保育】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内の7保育施設について、スマート保育を導入 <ul style="list-style-type: none"> 〔三吉保育所、水呑立正保育所、市立大学附属こども園、伊勢丘こども園、神辺保育所、柳津保育所、新市保育所〕 ・QRコードの読み取りで登降園の管理ができる。 ・お休みや早退の申請がスマホで簡単に行える。 ・連絡帳の記入がスマホでできる。献立や写真入りのおたよりも確認できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての公立保育所・こども園(46施設)への導入には至っていない。 <p>今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての公立保育所・こども園に導入する。 ○ 機能拡充について検討していく。

事業の評価

事業効果	○	地方創生に非常に効果的であった
	○	地方創生に相当程度効果があった
	○	地方創生に効果があった
	○	地方創生に対して効果がなかった

主な委員意見

- 事例発表中心のセミナーなどを定期的に開催し、デジタル化がいかに生産性の向上につながるかを周知することが必要。
- 相談窓口を開設することで、相談・支援の件数は把握できるが、相談・支援を受けた企業のデジタル化への達成度合いまたは進捗度合いを検証する仕組みも必要。
- 自家用車に依存する福山市において交通渋滞・駐車場不足が課題であり、鉄道・バス・タクシー等の多種多様な移動手段について、予約・決済等を含めたマルチモーダルな交通サービス、観光客増・収益増につながるMaaS等の取組が必要。
- 人口増加のためには、生み、育て、暮らしやすい環境となるような取組が必要であり、その一環としてスマート保育の導入等による保護者の利便性向上や保育士の業務負担軽減は効果的と考える。

地方創生推進交付金を活用した事業の状況（2022年度実績） ※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	福山版MICEの推進～都市のポテンシャルを引き出し、経済を活性化する～	計画期間	2020年度～2022年度	事業費 (うち交付金 充当額)		2020年度 実績額	9百万円 (5百万円)	2021年度 実績額	18百万円 (9百万円)	2022年度 実績額	25百万円 (13百万円)	合計	52百万円 (27百万円)
概要	MICEを通じて、国内外から新たな人や企業の流れを創出し、都市の持つポテンシャルを引き出しながら、地域経済の活性化につなげる。												


1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値 (2020年)	実績値 (2021年)	実績値 (2022年)	目標値 (2022年)
福山市におけるMICE開催件数	58件 (2018年)	16件	18件	32件	75件
総観光消費額	32,301百万円 (2018年)	18,723百万円	20,955百万円	32,587百万円	36,631百万円

2 主な事業内容


(1) 世界バラ会議福山大会の開催に向けた取組（実績額：19百万円）

2025年(令和7年)の世界バラ会議福山大会を、ばらのまち福山にふさわしい大会となるよう市民と行政の協働により創り上げる。

2022年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ 第20回世界バラ会議福山大会2025実施計画の具体化に向けた取組 ○ ばらの環境整備の推進 ○ 広報事業の展開  <p>【シンポジウムの開催】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第19回世界バラ会議アデレード大会でのPR、福山大会に向けたシンポジウム開催(参加者数:220人) ○ 新品種国際コンテストの運営(応募5か国 38品種) ○ 会場装飾用ばらのオベリスクプランターの製作 ○ 世界バラ会議福山大会ホームページ(40,912PV)やSNS(Twitter,Facebook,Instagram)を活用したPR(SNS登録者数:996人) ○ 福山大会を盛り上げ応援する取組を応援宣言として募集(登録数:598件) ○ 大会ロゴを通じたPR(ポスター、ピンバッジ、のぼり旗) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界バラ会議福山大会の参加意識と機運醸成を図る取組が必要。 ○ 大会を通じた新たなばらの価値の創出が必要。 <p style="text-align: center;">今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大会準備段階からの市民参画の機会を創出するとともに、多様なツールを活用した情報発信による大会認知度の向上に取り組む。 ○ 市民・企業等との共創による提案型事業の実施や福山大会に合わせて開催するRose Expoの企画を行う。

(2) MICE誘致推進事業（実績額：6百万円）

MICE誘致ディレクターの知見を生かした首都圏等でのセールス活動を行い、ターゲット分野の誘致を図る。

2022年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ MICE誘致ディレクターとの連携 ○ MICEの受入体制の整備・強化 ○ 特別感のあるMICE会場の提案 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光やホテル、バス、タクシー団体などの委員から成る福山市MICE推進協議会を開催(3回) ○ 誘致商談会へ参加し、25件の商談実施 ○ リニューアルした福山城関連施設を活用し、特別感のあるMICE会場を実証事業として利用(実施件数:7件、対象施設:6か所)  <p>【ユニークベニュー実証事業】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ MICE誘致件数の増加に向けた取組が必要。 ○ 市内のMICE施設のうち公共のMICE施設における予約方法、支払方法、備品利用などについて利便性を向上させる取組が必要。 <p style="text-align: center;">今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 誘致活動の際に、福山ならではのユニークベニューを提案し、MICEの誘致件数の向上に取り組む。 ○ 公共施設の利用方法について、MICE利用を想定した運用を検討する。

事業の評価	
事業効果	地方創生に非常に効果的であった
	地方創生に相当程度効果があった
	○ 地方創生に効果があった
	地方創生に対して効果がなかった
主な委員意見	
<ul style="list-style-type: none"> ○ KPIの目標値に対する実績値を見ると、効果があったとは言いがたい状況であるが、2022年実績値が2021年実績値を上回っていることや、とりわけ総観光消費額が伸びてきていることを勘案すれば、地域経済の活性化に寄与してきていると考える。 ○ リーデンローズなどの公共施設や市内ホテルなど、それぞれの場所に応じて、どういったMICE機能が担えるのか、具体的な提案を行うことが必要。 ○ 多くの地方都市の中から「福山市」を選択してもらうためには、都市ブランドの向上が不可欠であるとする。世界バラ会議福山大会の成功指標としては、大会後の「都市ブランド力」にあることを意識して取り組むことが必要。 ○ SNSやインフルエンサー等を活用したPRをさらに取り組むことが必要。 	

地方創生推進交付金を活用した事業の状況（2022年度実績）※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	稼ぐ力を高める備後圏域トータルプロデュース	計画期間	2021年度～2023年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2021年度 実績額	2022年度 実績額	2023年度 計画額	合計
概要	備後圏域全体で経済を支える基盤を構築し、広域連携の強みである多様な人材・産業を生かした持続可能な地域経済を確立する。				12百万円 (6百万円)	16百万円 (8百万円)	20百万円 (9百万円)	48百万円 (23百万円)

1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値(2021年)	実績値(2022年)	目標値(2022年)	目標値(2023年)
域内総生産（備後圏域市町）	32,425億円(2016年)	— (※1)	— (※2)	33,999億円	34,299億円
従業員1人当たり粗付加価値額	1,079万円(2019年)	1,129万円	— (※3)	1,114万円	1,159万円
福山市への転職者数	10件(2019年)	1件	4件	13件	16件

2 主な事業内容

※1…2023年度末公表予定 ※2…2024年度末公表予定 ※3…2023年12月以降公表予定

(1) 新事業の創出、販路開拓支援（実績額：8百万円）

企業の海外向けの販路拡大やSDGsの視点を踏まえた持続可能な企業経営を支援する。

2022年度の主な取組

- 企業の稼ぐ力の底上げ



備中備後デニム商品化コンテスト2022
【最優秀作品】『風呂敷』
【優秀作品】『ランドセルカバー』

- #### 実績・成果
- 備中備後ジャパンデニムプロジェクト・「備中備後デニム商品化コンテスト2022」の開催（応募件数：303件）
 - 福山城で海外バイヤー向けデニム商談会の開催（参加事業者数：9社）
 - SDGs視点を踏まえた新製品開発費用及び省エネ設備の導入補助 4件
 - 中小企業者等が実施する新規事業開拓のために必要な費用を補助 9件

課題

- デニム産地としての認知度が、市内に比べて首都圏で伸び悩んでおり、認知度向上の取組が必要。
- SDGs等の新たなニーズを踏まえた製品の開発や販路開拓支援が必要。

今後の取組

- 備中備後ジャパンデニムプロジェクトの方向性を示すロードマップを作成し、情報発信等に取り組む。
- SDGsの視点を踏まえた新製品の開発や新規事業の開拓を支援する。

(2) 人材の確保・育成に向けた支援（実績額：8百万円）

企業・大学等と連携した備後圏域の経済発展を支える人材の確保・育成を進める。

2022年度の主な取組

- 地域経済を支える人材の確保・育成



【社会人インターンシップHP】

- #### 実績・成果
- 都市圏の転職希望者を対象に、市内企業における実地又はWEBを通じたインターンのマッチングの実施（市内企業への就職成立者数：4件）
 - 「ものづくり大学」の実施（参加者数(デジタル関係)：184人）

課題

- 都市圏の転職希望者の中には、専業での市内企業への就職が難しい状況がある
- デジタルに関心が低い企業が多く、デジタルに取り組むきっかけづくりが必要。

今後の取組

- 兼業・副業インターンシップを検討する。
- デジタル技術の導入促進を図るセミナーや実務者向け講座を県や各産業支援機関と連携して実施する。

事業の評価

事業効果	○	地方創生に非常に効果的であった
	○	地方創生に相当程度効果があった
	○	地方創生に効果があった
	○	地方創生に対して効果がなかった

主な委員意見

- 海外向けの販路拡大のために不可欠な顧客ニーズ・市場動向等のマーケティング戦略の立案や販路開拓のノウハウが不足する市内の中小企業に対して産学金官による支援が必要。
- DXへの関心が低い企業に対して、DX人材の確保・育成が稼ぐ力に繋がっていくことを周知することが必要。
- SDGs未来都市に選定されたこともあり、企業がSDGsを踏まえて「稼ぐ」という意識醸成が必要。開発費用等の補助も効果的ではあるが、SDGsの観点を取り込むにあたっての提案力や開発力の養成も必要。
- デニムに関するコンテストやバイヤー向けの商談会などの取組は、独自性があり効果的と考える。人材の確保・育成の支援はニーズが強いと考えるため、もっと力を入れるべきと考える。

地方創生推進交付金を活用した事業の状況（2022年度実績） ※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	福山市地域戦略～多様な主体と共に創る地域づくりの推進～	計画期間	2022年度～2024年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2022年度 実績額	2023年度 計画額	2024年度 計画額	合計
概要	市内外の多様な主体が地域に関わることで、新たな人の流れを創出するとともに、地域の魅力向上につなげる。				49百万円 (24百万円)	52百万円 (26百万円)	34百万円 (17百万円)	135百万円 (67百万円)


1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値(2022年)	目標値(2022年)	目標値(2024年)
ワーケーション事業を通じて立ち上がったプロジェクトへの参加者	— (2021年)	67人	15人	45人
まちづくりサポートセンター登録団体(社)数	197団体・社(2021年)	223団体・社	215団体・社	237団体・社
「地域資源活用調査」を踏まえた地域資源を活用した事業の実施件数	— (2021年)	0件	0件	6件

2 主な事業内容


(1) 持続可能な地域コミュニティの形成（実績額：32百万円）

持続可能な地域コミュニティの形成に向けて、幅広い世代の住民や外部人材も含めた多様な主体が参画する地域づくりに取り組む。

2022年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ まちづくりサポートセンターの機能強化 ○ まちづくりミーティングの実施  <p>【交流会「ヒトマチカフェ」】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動団体などの情報交換の場「ヒトマチカフェ」の開催（開催回数：4回，参加者数：延べ95人参加） ○ 若者の地域活動参加のきっかけづくりの場「つれのうてNIGHT」の開催（開催回数：19回，参加者数：延べ128人参加） ○ まちサポFacebook，ホームページの開設による情報収集・発信（フォロワー数：218，ホームページ：8,157PV） ○ 地域課題の解決策について地域住民が対話するまちづくりミーティングの実施（開催回数：17回，8地域） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域課題について，多様な主体が関わりながら解決する仕組みづくりが必要。
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 持続可能な地域コミュニティの形成に向けて，まちづくりサポートセンターが地域とボランティア，NPO，企業，大学をマッチングし，課題解決に取り組む。

(2) 関係人口の創出と地域資源の活用（実績額：17百万円）

ワーケーションや地域資源を活用した取組を通じて関係人口を創出し，多様な主体による魅力的な地域づくりを進める。

2022年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ ワーケーション推進事業 ○ 地域資源活用調査研究事業  <p>【ワーケーション デニムアートPJ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域おこし協力隊や市内大学との連携による市内外の人材のマッチング（プロジェクト創出件数：9件，関係人口数：67人） ○ 地域資源の把握・分析，社会や観光トレンドを踏まえた資源活用に関する基礎調査の実施 ○ 空き家の適正管理について周知・啓発のため，「空き家について考えるハンドブック」を作成・配布 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内外の人材マッチングに向けて，受入側の課題や思いを可視化し，その思いに共感する人材の自発的な動きにつなげる必要がある。
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内の企業や人材に関する情報発信等を通じて，多様な主体の連携につながる仕掛けづくりを進める。

事業の評価

事業効果		地方創生に非常に効果的であった
		地方創生に相当程度効果があった
	○	地方創生に効果があった
		地方創生に対して効果がなかった

主な委員意見

- 地域コミュニティが活発に動き，地域づくりが具体化されていることは評価できる。今後も，この取組を継続拡大してもらいたい。
- ワーケーション事業に基づくプロジェクト参加者数やまちサポ登録団体数は目標値を大きく上回っており，地域の魅力向上が期待できる。また，（仮称）地域未来ビジョンにより，地域資源を活用した事業の実施件数が伸びることを期待する。
- 人材確保については，テーマ別に縦割りにならないような仕組みをつくって進めるべきと考える。

地方創生推進交付金を活用した事業の状況（2022年度実績） ※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	外国人が暮らしやすく活躍できるまちづくり	計画期間	2022年度～2024年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2022年度 実績額	2023年度 計画額	2024年度 計画額	合計
概要	外国人が自身の能力を十分に発揮し、地域住民や企業と協力して、まちの活力創出に向けて活躍できる環境づくりをめざす。				200万円 (100万円)	300万円 (200万円)	200万円 (100万円)	700万円 (400万円)


1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値(2022年)	目標値(2022年)	目標値(2024年)
外国人市民のうち、「これからも福山に住み続けたいと思う」と回答した人の割合	— (2021年)	91.0%	76.0%	78.0%
多文化共生大学の参加者数	83人(2021年)	60人	470人	490人
外国人が増えることを肯定的にとらえる市民の割合	— (2021年)	49%	45%	55%

2 主な事業内容

(1) 行政の情報提供体制の充実（実績額：0.7百万円）


だれもが暮らしやすいまちづくりの推進のために、簡単で分かりやすい日本語や多言語での情報提供体制の充実に努める。

2022年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> 多言語による情報提供体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 福山市ホームページに「やさしい日本語」への変換機能を追加 外国人市民等への子育て訪問時の通訳ボランティアの派遣(件数:6件) 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人市民の「やさしい日本語」変換機能の認知度向上の取組が必要。 ニーズに応じた通訳ボランティアの確保・育成が必要。
		<p>今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 多文化共生大学などの機会を捉え、「やさしい日本語」変換機能を周知する。 多言語サポーター養成講座等を実施し、通訳ボランティアのスキルアップと人材確保を図る。

【子育て支援通訳ボランティア研修会】

(2) 地域コミュニティの活性化と新たな人材の確保（実績額：1.3百万円）

外国人が暮らしやすい多文化共生のまちづくりを進めることで、地域や企業における新たな人材の確保や地域コミュニティの活性化につなげる。

2022年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> 民間企業への就労促進 地域コミュニティへの参画促進 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生を対象とした合同企業説明会の実施(参加者数:58人) 日本語学習が初期段階である者を対象とした日本語講座の実施(開催回数:8回, 受講者数:46人) 日本語会話サロンの実施(オンライン)(開催回数:12回, 受講者数:23人) 	<ul style="list-style-type: none"> 市内外国人留学生の市内就職者数は、就職者全体の半数以下にとどまっている。 コロナ禍で低迷した各講座や説明会等の参加者数の増加に向けた取組が必要。
		<p>今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生や企業の意向調査を行い、市内・備後圏内での就職を促進する。 各講座等について、外国人との関わりがある団体等も含めた募集の方法を検討。

【外国人留学生向け合同企業説明会】

事業の評価	
事業効果	○ 地方創生に非常に効果的であった
	○ 地方創生に相当程度効果があった
	○ 地方創生に効果があった
	○ 地方創生に対して効果がなかった

主な委員意見

- 91%の外国人市民が、福山市に住み続けたいと回答していることは、非常に評価できる。残りの9%について、検証し有効な施策を検討することが必要。
- 外国人が増えることを肯定的にとらえる市民が49%であるため、市民に理解してもらえるような施策をさらに実施することが必要。
- 市内の中小企業の多くは、外国人実習生がいないと事業継続が困難な状況である。受け入れ企業が外国人労働者への労働環境の改善ならびに処遇の見直しなど、良心的できめ細かな対応が求められていると考える。
- 留学生だけではなく、既に働いている外国人も対象にした取組を増やすべきと考える。
- 外国人の暮らしやすさに加え、従来の福山市に住む市民とのコミュニケーションの機会の創出など、誰もが住みやすい観点での施策が必要。

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業（企業版ふるさと納税）の状況（2022年度実績） ※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	福山城築城400年～城のあるまち福のまちプロジェクト～	計画期間	2019年度～2022年度	事業費（うち寄附金充当額）	2019年度実績額 368百万円（0.2百万円）	2020年度実績額 370百万円（12百万円）	2021年度実績額 340百万円（19百万円）	2022年度実績額 1,510百万円（136百万円）	合計 2,588百万円（168百万円）
概要	福山城やその周辺の整備を進め、歴史・文化資源等の価値向上や魅力発信に取り組む。								

1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値（2019年）	実績値（2020年）	実績値（2021年）	実績値（2022年）	目標値（2022年）
総観光客数	725万人（2017年）	630万人	379万人	354万人	436万人	825万人
福山市文化ゾーンの来場者数	410千人（2017年）	351千人	131千人	124千人	348千人	437千人

※総観光客数は、2019年から算出方法を「広島県観光客統計調査に関するガイドライン」に沿って算出

2 主な事業内容

2022年度の主な取組	実績・成果	課題・今後の取組
<ul style="list-style-type: none"> ○ 福山城及び周辺整備事業 ○ 福山城築城400年記念事業 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福山城及び周辺整備事業 <ul style="list-style-type: none"> ・福山城博物館等の耐震改修 ・福山城公園の施設整備 ○ 福山城築城400年記念事業 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 整備を進めてきた福山城及びその周辺をはじめとする本市の歴史・文化資源等について、価値の磨き上げや市内外への情報発信を進める。



【復元後の福山城天守】



【東坂坂路周辺の景観向上】



【チームラボ福山城光の祭】

事業の評価	
事業効果	○ 地方創生に非常に効果的であった
	○ 地方創生に相当程度効果があった
	○ 地方創生に効果があった
	○ 地方創生に対して効果がなかった
主な委員意見	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 福山城及び周辺整備事業について、施設の利活用促進と制度整備がなされ、福山城に対するより多くの市民の愛着が醸成されたと考える。施設担当課が多岐にわたるが、民間による施設を利用した自発的な経済活動（入場料収入のあるイベントや団体旅行観光客による利用等）が活発化するよう手続きの簡略化、ワンストップ化をさらに進めることが必要。 ○ 今後も、市内外へ福山城の魅力発信を積極的に行うべきと考える。 ○ 今後も、福山城を中心としたイベントや広告・宣伝を継続的に行うことにより、末永いコンテンツとして活かしていくべきと考える。 	

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業（企業版ふるさと納税）の状況（2022年度実績）

計画名	福山市まち・ひと・しごと創生推進計画	計画期間	2022年度 ～2024年度	事業費 (うち寄附金充 当額)	2022年度 実績額	2023年度 計画額	2024年度 計画額	合計
概要	「福山みらい創造ビジョン」に基づいた事業に企業版ふるさと納税を活用することで地方創生の推進に取り組む。				29百万円 (27百万円)	103百万円 (76百万円)	— (—) ※	— (—) ※

※2024年度の事業費が未定のため

1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値 (2022年)	目標値 (2022年)	目標値 (2023年)	目標値 (2024年)
市スポーツ施設延べ利用者数	510千人 (2021年)	902千人	1,200千人	1,300千人	1,400千人

事業の評価

事業 効果		地方創生に非常に効果的であった
		地方創生に相当程度効果があった
	○	地方創生に効果があった
		地方創生に対して効果がなかった

2 主な事業内容

2022年度の主な取組

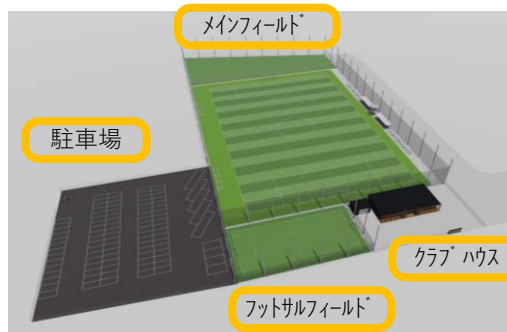
- サッカーを活用した地域振興プロジェクト

実績・成果

- 市民のスポーツ活動の拠点となるサッカーフィールド等の整備のため、「福山市スポーツ振興基金」に積立を行った。

課題・今後の取組

- Jリーグ参入をめざす福山シティFCによる地域貢献活動を実施することで、多世代が集う新たなスポーツや健康の発信拠点として活用する。



【福山シティFC練習場(2023年7月30日オープン)】

主な委員意見

- 官民の連携により、個人と企業が、地方創生に直接貢献できるため、効果が高いと考える。
- 福山シティFCのJリーグ参戦という明確な目標のもと、市を挙げて応援すること自体が、地方創生につながると考える。
- この度新設された福山シティFCの練習場を活用して、今後、「健康」をキーワードに、特徴的な取り組みを展開してはどうかと考える。
- さらにユニークな納税メニューがあれば、福山市への興味向上につながると考える。

新たに認定されたデジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用する事業（概要）

計画名	世界バラ会議福山大会を契機としたばらのまちづくりプロジェクト	計画期間	2023年度～2025年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2023年度 計画額	2024年度 計画額	2025年度 計画額	合計
概要	世界バラ会議福山大会を成功させることで、国際都市として世界から選ばれる福山の実現をめざす。				47百万円 (23百万円)	77百万円 (39百万円)	63百万円 (31百万円)	187百万円 (93百万円)

1 KPI

関連するKPI	事業開始前	目標値（2025年）
総観光客数	3,540千人	6,600千人
世界バラ会議福山大会応援宣言の数	532件	782件
首都圏における「ばらのまち福山」の認知度	8.4%	17%

2 主な事業内容

- 多様な主体が参画しやすい体制の構築，ばらの価値の磨き上げ・新たな価値の創出
 - ・ 「ばらのまち福山」の情報発信
 - ・ 世界バラ会議福山大会応援宣言の募集による多様な主体の参加促進
 - ・ Rose Expo FUKUYAMA2025の企画・設計
 - ・ （仮称）市民・企業提案型事業の募集
 - ・ 市民参加によるばらの環境整備
 - ・ ばら栽培に関するセミナー講習会の実施
- インバウンド・国際MICEの誘致促進及び環境整備
 - ・ MICE誘致ディレクターを活用した国際会議等のMICE誘致促進及び首都圏での誘致活動
 - ・ 世界バラ会議をケーススタディとした観光周遊等のオプションを盛り込んだMICE時受付手法の研究・システム構築
 - ・ 首都圏等へのセールスによる誘致活動の促進
 - ・ 誘致スキル向上と市内のPCO事業者育成のためのセミナーの開催などのMICE誘致促進
 - ・ 多言語対応のデジタルマップ作成
 - ・ 飲食店メニューの多言語化によるインバウンド受入環境整備
 - ・ 文化財の利活用を考えるシンポジウム開催及び福山城城泊の事業化に向けた支援によるユニークベニューの磨き上げ

新たに認定されたデジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用する事業（概要）

計画名	若者・女性から選ばれる都市づくり	計画期間	2023年度～2025年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2023年度 計画額	2024年度 計画額	2025年度 計画額	合計
概要	子育て・仕事・賑わい・教育など、多角的な視点で施策を推進することにより、若者や女性に選ばれる都市の実現をめざす。				64百万円 (32百万円)	55百万円 (27百万円)	45百万円 (23百万円)	164百万円 (82百万円)

1 KPI

関連するKPI	事業開始前	目標値（2025年）
20歳～24歳の男女転出入数	-386人	0人
市内大学卒業生の地元就職率	27.4%	32.5%
市内高校生の地元就職率	65.5%	75.0%
ふくやまワーク・ライフ・バランス認定事業者数	140事業者	155事業者

2 主な事業内容

- 学生の地元定着の促進
 - ・市内事業者のWebを活用した採用活動への支援
 - ・高校生向け合同企業説明会の実施
- 若者・女性など誰もが活躍でき、子育てに喜びを感じることができる環境づくり
 - ①女性が活躍しやすい環境づくり
 - ・女性の就業環境改善に向けた就業規則改正・啓発セミナーの開催等の支援
 - ・女性向け合同企業説明会の開催など、女性と企業とのマッチング機会の創出
 - ②誰もがチャレンジできる環境の整備
 - ・中途採用者の就業促進のための企業説明会の開催
 - ・保育士への復職支援コーディネータの活用
 - ③福山駅周辺を中心とした都市の魅力向上
 - ・商店街活性化のためのおもてなし環境整備への支援
 - ④魅力ある楽しい子育て環境の整備
 - ・デジタル技術や最新のテクノロジーに触れるイベントの開催（びんごキッズラボ）
 - ⑤高度専門人材による効果的な事業構築
 - ・デジタル化など行政課題を解決するための高度専門人材の活用推進

新たに認定されたデジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用する事業（概要）

計画名	ふくやまSDGs推進プロジェクト	計画期間	2023年度～2025年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2023年度 計画額	2024年度 計画額	2025年度 計画額	合計
概要	市内外の多様な主体との連携の下、環境課題・社会課題の解決や新たな価値の創造に取り組み、持続可能なまちの実現をめざす。				23百万円 (11百万円)	27百万円 (14百万円)	24百万円 (12百万円)	74百万円 (37百万円)

1 KPI

関連するKPI	事業開始前	目標値（2025年）
交付金事業を通じて生まれたプロジェクト数	—	30件
（仮称）福山版サーキュラーエコノミープラットフォームのアクセス件数（延べ）	—	30,000件
農業参入法人による雇用者数	—	60人

2 主な事業内容

- 省エネルギー・再生可能エネルギーの普及促進と循環を見据えた経済活動への転換
 - ・【デジタル】（仮称）福山版サーキュラーエコノミーの実現に向けたプラットフォームの構築
 - ・【デジタル】首都圏の先端技術を有する企業の経営者層やエンジニアによるデジタル技術を活用した市内企業のGX化や地域産業の魅力づくりの支援
 - ・企業の省エネルギー化に向けた省エネ診断の支援
 - ・脱炭素・SDGsセミナーの実施
 - ・次世代エネルギーパークを中心とした環境学習の開催
- 温室効果ガスの吸収源の確保に向けた仕組みづくり・人材の確保
 - ・地域と都市住民等との協働での里山里地の再生・保全活動の支援
 - ・農業法人の探索，法人の経営判断，参入候補地域の選定に係る支援

1 TYPE1

事業名	書かない窓口システムの導入	事業期間	2022年度	事業費 (うち交付金充当額)	計画額	27百万円 (13百万円)
概要	申請書類への記入項目を減らすことで、来庁者の申請手続を簡素化し、市民サービスの向上を図る。			実績額	23百万円 (12百万円)	
主なKPI		実績値 (2022年度)	目標値 (2022年度)	目標値 (2023年度)	目標値 (2024年度)	
書かない窓口システム対象手続数		8手続	8手続	15手続	30手続	
利用者満足度		81%	70%	75%	80%	



【書かない窓口システム】

事業名	公民館等のスマート化	事業期間	2022年度	事業費 (うち交付金充当額)	計画額	87百万円 (44百万円)
概要	利用者の利便性向上と災害時等の緊急時における施設解錠のスマート化を図る。			実績額	55百万円 (28百万円)	
主なKPI		実績値 (2022年度)	目標値 (2022年度)	目標値 (2023年度)	目標値 (2024年度)	
公民館の利用満足度		未計測	70%	75%	80%	
公民館利用率の上昇率		未計測	3%	6%	9%	



【公民館等のスマート化】

2 地方創生テレワーク型

事業名	サテライトオフィス等整備事業費補助事業 (iti SETOUCHI)	事業期間	2022年度	事業費 (うち交付金充当額)	計画額	102百万円 (51百万円)
概要	サテライトオフィス等を開設する民間事業者を支援することで、本市へ人や企業の流れを呼び込み、オフィス誘致につなげる。			実績額	93百万円 (46百万円)	
主なKPI		実績値 (2022年度)	目標値 (2022年度)	目標値 (2023年度)	目標値 (2024年度)	目標値 (2025年度)
利用企業数 (うち、県外企業数)		17社・団体 (4社・団体)	10社・団体	20社・団体	25社・団体	30社・団体 (10社・団体)
利用者数 (うち、県外利用者割合)		2,481人 (5%)	—	—	—	3,600人 (33%)
移住者数		2人	—	—	—	10人



【サテライトオフィス】

【参考】 デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）を活用する事業（概要） ※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

1 TYPE1

事業名	スマート保育推進事業	事業期間	2023年度	事業費 (うち交付 金充当額)	計画額	174百万円 (87百万円)		
概要	保育現場へのICT導入により、保護者の利便性や保育の質の向上につなげるとともに職員の業務改善をめざす。また、保育環境を整備することで、保育士の確保につなげる。							
主なKPI				目標値 (2023年度)	目標値 (2024年度)	目標値 (2025年度)		
保護者の利用満足度				70%	75%	80%		
保護者の滞在時間の削減 (対2022年度比)				46時間	693時間	1,513時間		
事務作業従事時間の削減 (対2022年度比)				40%	50%	60%		



【スマート保育】